



患者数はこの30年で6倍に

大腸がんは 早期発見が大切です

■問い合わせ いきいき健康課 ☎ 23-3220

近年、日本人の2人に1人は「がん」にかかり、また、3人に1人は「がん」で命を落としています。島根県や安来市でも死亡原因の第一位は「がん」です。中でも大腸がんにかかる人の数は全国的にこの30年で約6倍に増えています。

大腸がんにかかる割合は高齢になるほど高く、50歳代から高くなり始めます。

大腸がんとは

大腸がんは、長さ約2mの大腸（結腸・直腸・肛門）に発生するがんです。粘膜の表面から発生し、大腸の壁に次第に深く進入していき、進行するにつれてリンパ節や肝臓、肺など別の臓器に転

移します。

病気が進行すると・・・

通常、早期の大腸がんは自覚症状がありません。部位や程度によって異なりますが、進行すると血便や下血、下痢と便秘の繰り返し、便が細い、便が残る感じがある、おなかが張る、腹痛、貧血などの症状が見られます。

早期の段階では症状を自覚することがほとんどないため、発見が遅れると病状が進行して治療が難しくなります。

自覚症状がないうちにこそ、毎年大腸がん検診を受けて早期発見につなげましょう。

大腸がん検診で早期発見を

対象 40歳以上（1年に1回）
料金 500円
内容 便潜血検査

大腸がんは早期発見・早期治療で95%以上が治ると言われています。お早めの受診を！

市内で行う各種がん検診は6月から実施します。

詳しくは、広報やすぎ6月号と一緒にお配りした「健診のしおり」をご覧ください。いきいき健康課へお問い合わせください。

検査の方法

「便潜血検査」、いわゆる検便で、便に血液が混じっていないかどうかを調べます。

大腸がんやポリープなどがあると、便の中に血液が混じることがあります。この検査は、便に付着した目には見えない微量な血液でも調べることができます。

2日間に分けて便を専用の検査容器に採取して提出します。



▲採便棒で便の表面をこすります。

●結果が「陽性（+）」なら必ず精密検査（大腸内視鏡検査）を受けましょう

「たまたまだろう、痔があるから」と自己判断せず検査を受けましょう。便潜血検査を繰り返すことや様子を見ることは適切ではありません。2日分のうち1日でも「陽性（+）」なら精密検査が必要です。内視鏡で大腸の中を検査し、ポリープなどがあればその場で切りとることがあります。